



ズワイガニ（オホーツク海南部）①

ズワイガニは我が国周辺では日本海、オホーツク海、および茨城県以北の太平洋沿岸に分布し、本評価群はこのうちオホーツク海南部に分布する群である。本資源の漁獲量等は漁期年（7月～翌年6月）の数値を示す。

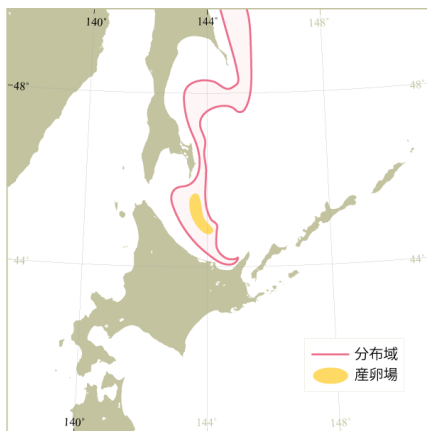
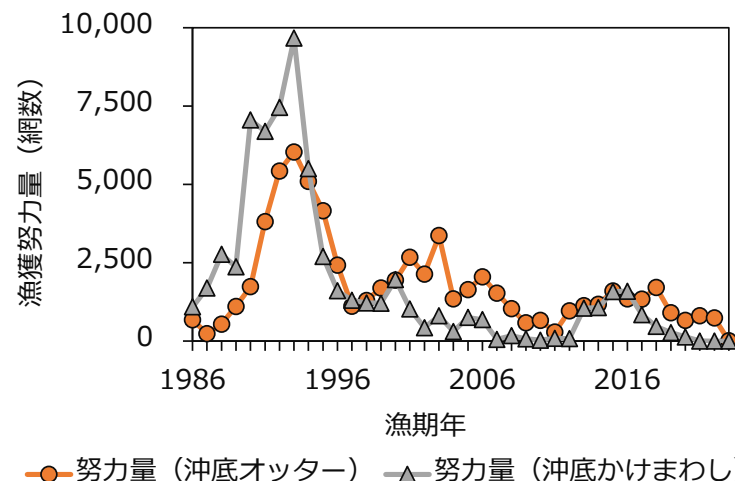


図1 分布域

本資源は日本水域からロシア水域にかけて連続的に分布する「跨り資源」である。



● 努力量（沖底オッター） ▲ 努力量（沖底かけまわし）

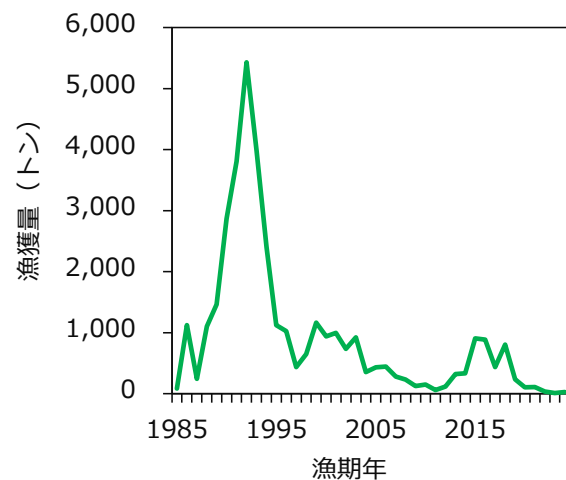


図2 漁獲量の推移

本資源の我が国による漁獲量は、2000年漁期以降減少を続け、2011年漁期には60トンとなったが、その後増加した後、2024年漁期は28トン（沖底オッター：16.6トン、沖底かけまわし：0.8トン、沿岸漁業：10.9トン）となった。

図3 漁獲努力量の推移

漁獲努力量は、沖底オッター、沖底かけまわし共に増減しながら2011年漁期まで減少を続けたが、その後は増減しつつ、2023年漁期には沖底オッターで12網、沖底かけまわしで0網となった。2015～2018年漁期はズワイガニ狙いの操業が増えたこと等により、漁獲量が多かったと考えられる。

ズワイガニ（オホーツク海南部）②

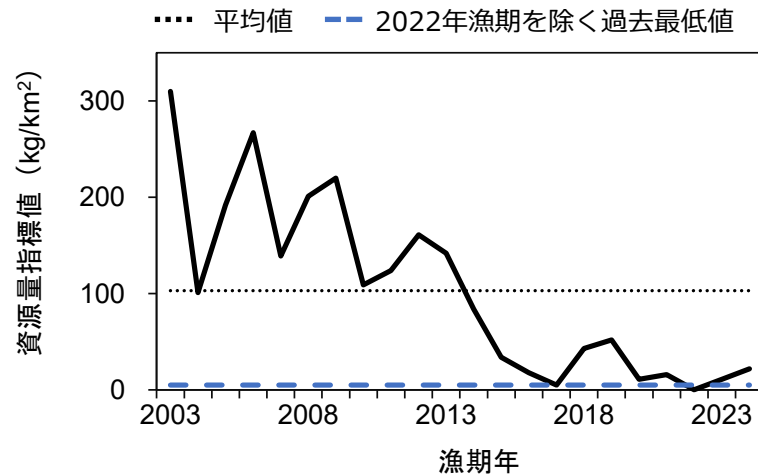


図4 資源量指標値とその平均値および過去最低値

調査船調査による漁獲対象資源（甲幅90mm以上の雄）の分布密度推定値を資源量指標値とした。資源量指標値は、2017年漁期に5kg/km²まで減少した後、一旦増加したものの、2020年漁期以降は再び減少し、2024年漁期には22kg/km²となった。

資源管理方針に関する検討のため、資源量指標値の2003～2024年漁期の平均値（103kg/km²）および最低値（5kg/km²；ただし2022年漁期を除く*）を評価の基準にすることを提案する。2024年漁期の資源量指標値（22kg/km²）は、平均値を下回るものの最低値を上回る。

本資源の管理基準値等の検討について

本資源は日本水域とロシア水域に跨って分布し、日本水域における情報のみでは「跨り資源」である本資源全体の動向を捉えることができないことから「漁獲管理規則およびABC算定のための基本指針」に従い計算される管理基準値案に基づく漁獲管理規則の提案は困難である。

現行の漁獲シナリオでは、我が国の漁船による漁獲の状況等を踏まえて、我が国漁船の操業水域に分布する資源の最適利用が図られるよう漁獲を管理するとされている。

*2022年漁期は分布様式や甲幅組成が例年と大きく異なっており、その資源状態は本資源の評価の基準として適切ではないと考えられるため。